

## 職員による自己評価

## A環境面

・コロナ感染予防から始まった、新しい生活習慣が定着し、人数や活動に応じて、室内・外をうまく使い分ける事が出来た。

## B児童への支援内容

・利用児童と担当スタッフの相性を考慮し、発達段階に応じた取り組みが出来た。  
・引き続き、小集団での活動は出来る限り屋外で行った

## C関係機関との連携

・主に保護者さんを通して学校や関連機関との橋渡しに取り組んだ

## D保護者への説明責任・信頼関係

・どの保護者さんに対しても、丁寧な説明・対応を心がけた

## E非常対応

・コロナや積雪の際の対応は、臨機応変に対応する事ができた

## 保護者による評価

## A環境面

・相性の良いお子さんと利用曜日が一緒になるよう調整してもらって助かった。

## B児童への支援内容

・子供のその日の機嫌や状態によって、楽しみにしている日もあれば、そうでない日もある。  
・家庭だけでは中々身に着けることができない生活習慣が身についた

## C事業所からの情報発信

・日々の活動について、細かく連絡帳に記載があり、安心  
・スタッフ間での情報共有にタイムラグがあった

## D非常対応

・学校や保育園で感染症が流行った際の利用の基準など、判断に迷うときは、その都度質問して確認ができる。

## 事業所内での分析

## 【共通点】

- ・新しい生活習慣など、望ましい生活習慣が身に付いた
- ・問い合わせに対する、迅速・丁寧な対応

## 【相違点】

- ・スタッフ間の情報共有に、タイムラグがある

## 分析・検討してみて…

### 事業所の強み

- ・一人一人の発達段階や個性に応じた人員配置、活動内容の検討が来ている
- ・コロナ禍において、望ましい生活習慣を身に付くなど、普段の生活に役立つ事を、習慣として身に付くよう、指導が来ている
- ・保護者さんからの質問に対する、迅速・丁寧な対応

### 事業所の改善点

- ・利用児童一人一人の保護者さんからの連絡事項など、タイムリーに漏れなく、その情報を必要とするスタッフに伝える方法について、検討する
- ・事業所への問い合わせや連絡など、発信が多い保護者さんと、そうでない保護者さんに対する対応の頻度や密度につて、今後どのように公平性を保っていくか、検討が必要

## 事業所の改善への取り組み

- ・スタッフとの情報共有は、全体への一斉通知と、ノートの主に2つの媒体で対応している。児発と放デイの入れ替え制のため、それぞれの利用児童についての保護者さんからの連絡事項については、各担当が午前・午後ともに、連絡帳の保護者記入欄を事前に確認するようにする。
- ・コロナ感染予防のため、対面での面談を控えていた時期もあったので、今後は感染状況に注意しながら、状況に応じてオンライン含め、臨機応変な形態での面談やフィードバックの方法を検討する。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

こだわりが強かったり、感覚過敏のため、感染予防等望ましい行動が習慣化しにくいお子さんが多い中、普段の生活の延長線上にある児童発達支援・放課後等デイサービスにおいて、感染予防等、望ましい生活習慣を無理なく身に付ける事ができました、ととても感謝されました。引き続き、一人一人の発達段階や特性に配慮した療育活動に取り組み、楽しくコミュニケーション力・社会性が伸びるよう、支援していきたい。

事業所名 ルルちいさいおうち

担当者 渡部 淳子